

## 令和二年度卒業証書授与式 式辞

丹波篠山市立篠山中学校

枝の先にふくらんだ桜の新芽が、心をつつき、旅立ちの喜びと、別れの悲しみが交錯するように、暖かな日、寒い日を繰り返し、季節が冬から春へと移りかわる今日の佳き日、

丹波篠山市教育委員 山本恭子 様、丹波篠山市長 酒井隆明 様 及び 保護者の皆様をお迎えし、令和二年度、第七十一回卒業証書授与式を皆様の協力により挙行できますこと、厚くお礼申し上げます。

百十名の皆さん、卒業おめでとうございます。今、義務教育終了という、大きな節目を迎えました。これから、皆さんはそれぞれが選んだ道へと一歩踏み出します。卒業証書は、三年間の成長の証であると同時に、これからの人生への入場券、社会に参加することの許可証であると思ってください。

さて、今から三年前の入学式、皆さんの代表は「これから三年間、様々な困難に直面することと思いますが、それらも、ここに集まった仲間と支え合いながら、乗り越えていこうと思います」と誓いの言葉を述べました。この言葉の通り、中学校生活、最終学年は、新型コロナウイルスにより、行動が制限され、多くの試練があった一年間でした。しかし、この辛い生活をしているからこそ、命や健康の安心、仲間や家族の絆など、当たり前と考えていたものの大切さに気づき、支え合って乗り越えた一年間でもありました。

三か月に及んだ休業期間が終わり、中学校最後の学年が再開した六月、遅れている学習や生活を取り戻そうと、真剣に授業に取り組み、また、仲間を大切にしました。積極的に手を上げ、意見をかわし、新しい考えを生み出すという未来の学びにつながる授業を行い、休業期間を挽回して、あまりある学習ができました。

学校行事においても、今年ほど仲間の絆を大切にした年はなかったと思います。部活動では、総合体育大会や演奏会は代替行事となりましたが、仲間と支え合い、ひたむきにプレーしました。体育祭、力強い演技は素晴らしく、仲間と過ごす一瞬一瞬を大切に思い強さを感じました。全ての種目を一発で完成させ、下級生に篠中生の心意気を示しました。文化祭、短い時間の中で合唱とダンスをつくりあげ、仲間の絆の強さを声と体を使って表現しました。ユニバーサルスタジオジャパンでの修学旅行、思う存分楽しみ、マスクの下には笑顔がこぼれました。どの行事でも、今の環境に不平不満を言わず、ベストな答えを求めて工夫しました。そして、大人や仲間への感謝の言葉を忘れませんでした。

子どもから大人への階段を登り始めた中学生は、葛藤の渦の中でもがき、時には道を踏み外しがちです。しかし、皆さんは、新型コロナウイルスの話題で暗くなりがちな世の中にあっても、物事を真面目にとらえ、話し合い、協力して乗り越えました。誠実な皆さんに、私からも「よくがんばった」と伝えたいと思います。

つきない思い出を、心のアルバムに納めつつ、これから描く人生の未来地図を一つの言葉で心から祝福したいと思います。

『何も咲かない寒い日は、下へ下へと根をのばせ。やがて大きな花が咲く』

皆さんは家族に見守られ、この世に生を受けました。しかし、今日まで、決して平穏無事な毎日ではなかったはずです。躍動感に満ちて今日を迎えられたのは、愛情と慈しみに満ちた家族や地域の方の支えがあったからです。「おかげさまで卒業しました」と感謝の気持ちを伝えるとともに、命の大切さを改めて考え、これから強く生き抜く決意をしてください。

明日から、いよいよ義務教育という温室を離れ、波乱に満ちた世界へ飛び立ちます。これから迎える社会では、何が普通で何が当たり前であるか問い直し、新しい生活を創る発想が大切になります。そこには、無限の可能性がある一方、厳しいことが、それ以上にあるかも知れません。

人間の値打ちは、楽しいときや嬉しいときより、むしろ苦しいときや辛いときのふんばりにこそ、その真価が表れます。春になると華やかな花を咲かせる桜の木も、厳しい冬の寒さを堪え忍んではじめて美しい花を咲かせます。今年一年がそうであったように、これから遭遇する課題に対して、成果がすぐに出なくても、仲間と協働し、「焦らず あわてず あきらめず」、目の前にあること一つ一つに挑戦し、時には、失敗の中にある価値も学び、人としての根をはってください。そして、自分らしい夢の花を咲かせて欲しいと願っています。

次に、保護者の皆様一言、お祝いを申し上げます。お子様のご卒業、誠にありがとうございます。今から十五年前、子どもたちは、ご両親から一つの命を授けられました。その命は、今、頼もしく燦然と輝きをはなとうとしています。お子様の晴れ姿に感激ひとしおのものがあるかと思えます。本日を人生の節目として、今後とも立派に自立され、個性豊かな人間として成長されますよう、心からお祈り申し上げます。

また、三年間、篠山中学校の教職員一丸となって、子どもたちの成長を見守りつつ、精一杯努力したつもりではありますが、いたらない点もあったと思います。それにもかかわらず、私たちにお寄せくださいましたご理解とご協力に対して厚く御礼申し上げます。

では、卒業生のみなさん、いよいよ旅立ちの時が近づいてきました。ふるさと丹波篠山で学んだことを誇りに思い、この素敵な仲間たちと過ごした喜びを胸に刻んで、これからの人生を歩んでいってください。教職員、在校生、保護者や地域の方々とともに、卒業生の皆さんの輝く未来にエールを送り式辞とします。

令和三年三月十日

丹波篠山市立篠山中学校長

細 見 博 文